



# スターリイマンの9つの風船便り

2012年  
2月9日発行

「被災地の未来を輝かす心の原風景」  
第二作目の気仙沼の作品が完成!



「被災地の未来を輝かす心の原風景」  
シリーズ第二作目～宮城県気仙沼市～  
「愛しき故郷へ未来からの贈り物」

皆様、お元気でお過ごしですか？

立春が過ぎても、寒さは一段と厳しく、大雪の被害に見舞われている日本列島。自然と共に生きていく事を実感する毎日です。

さて、昨年より展開中の「被災地の未来を輝かす心の原風景」九作品シリーズ。第一作目の岩手県陸前高田市の一本松の作品に引き続き、第二作目の宮城県気仙沼市の作品が完成しました。

昨年の八月、十二月と二度訪れた気仙沼の風景や、出会った方々との交流の中で、生まれた今回の作品。完成に至るまでの背景や想いを「9つの風船便り」を通して、皆様に感じていただけたら嬉しいです。それでは、どうぞ最後までよろしくお願い致します！

はせがわいさお・芳見・祐希

昨年の八月下旬、紙芝居プロジェクトの活動で、国道四十五号線を、気仙沼から南三陸に向って南下していた時の事。ある風景が私の目に留まりました。痛々しい津波の爪痕が残る中、なぜかそこだけ杉の木が密集して立っていたのです。次の訪問先との約束の時間が迫っていたので、急いで助手席の祐希に写真を撮ってもらいました。ほんの一瞬、車窓から見ただけでしたが、凛とした杉の木々達の姿が、私の脳裏に深く焼き付いていました。

陸前高田の一本松を描いた後、第二作目は、気仙沼を描こうと決めていました。港町、漁船、大漁旗…自分の中で思い浮かべた気仙沼のイメージから、色々と作品の構想を練っていましたが、八月に出会った杉の木々たちの姿が、心から離れません。

「もう一度、あの場所に行きたい」そう思っていた所幸運にも、気仙沼方面に十二月のクリスマスに合わせ、紙芝居をお贈りする活動のご縁をいただき、杉の木々たちとの再会を果たす事が出来ました。頭の中でずっと思い出していた姿を目の前にした時、熱い想いが込み上げてきました。



上が八月に、下が十二月に撮った写真。遠くに見えるのが気仙沼大島。大島は震災直後、コンビニートの火災が燃え移り、大きな被害に遭った。

八月の時は天候が悪く、遠くまでよく見えなかったのが気がつきませんでした。木々たちの左側には、気仙沼大島が見えました。

杉の木々たちから伝わってくる力強い生命力を、全身で受け止めているうちに「やっぱりここにしよう!」と決意が固まりました。



八月の時と比べて、瓦礫が片付けられ、木々たちの姿がより目立って見えた。木々たちはどんな想いで、変わり果てた故郷の姿を見守ってきたのでしょうか。



帰宅後、祐希にグーグルマップで、木々たちがいた場所を調べてもらおうと、「最知(さいち)」という地名だった事が分かりました。そこからもう少し南の方には、お伊勢浜や岩井崎海岸が広がっていて、天然記念物のコクガンや、多くの渡り鳥たちの越冬地だということも分かりました。また、もっと詳しい周辺の情報や歴史を、紙芝居の活動でお世話になった、津谷保育所の千葉所長先生や気仙沼図書館の職員の方、河北新報の田柳記者さんから教えていただき、さらに作品に込める想いが深まっていきました。

草花が空に舞い、それを追うように北へ旅立つコクガンと気仙沼大島。春を告げる気仙沼の原風景。スターリイマンが出会った、気仙沼の未来を輝かす心の原風景。それは、「愛しき故郷へ未来からの贈り物」でした。どうか皆様の心にも、暖かい春が訪れますように：願いを込めてお届け致します。

さて、「被災地の未来を輝かす心の原風景」第二作目は、福島県いわき市を描いた作品となります。

一月二十日に、紙芝居の活動で福島県を訪れた際に、題材となる「久之浜」という場所に行ってみりました。今回も不思議な出会いがありました。どんな作品が出来上がるのか、是非楽しみにお待ちくださいね！

【お知らせ】「被災地の未来を輝かす心の原風景」の作品には、それぞれ芳見が創作したお話があり、現在、復興祈念朗読会として、作品をお伝えさせていただける場所を募集しております。朗読会の詳細は、「ドリーム工房☆はせがわ」まで、お問い合わせください。

## 震災から一年：三月十一日 復興祈念朗読会の開催決定

東日本大震災から一年となる、三月十一日を迎えるにあたり、復興祈念朗読会を開催する事に致しました。(下記のご案内をご参照ください)

今回、朗読会を開催させていただく「鎮守氷川神社」では、震災発生の翌日の三月十二日から、一日も欠かすことなく、毎日午後五時三十分復興祈願祭を行っています。当日は、「被災地の未来を輝かす心の原風景」の第一作目から第三作目までの作品の展示、並びにお話の朗読と、鈴木宮司さんのお話を聞きいただいた後に、神社の社殿にて、除災招福祈願と復興祈願を執り行う予定です。ご一緒に被災地に想いを寄せながら、参加者お一人お一人の心に、希望の光を灯すようなひと時となれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

「鎮守氷川神社」とのご縁、きっかけは、昨年の五月。「ゆめふるさとまつり」の公演で雅楽演奏をしていただいた、「武蔵一宮氷川神社」の神職である遠藤さんを通して、「鎮守氷川神社」の鈴木宮司さんにご縁をいただき、七月に、「鎮守氷川神社」の原風景を描いた作品をご奉納させていただきました。

その後も、紙芝居の活動をご支援していただいたり、被災地への活動に入る直前の七月二十八日に、活動の成幸と無事をご祈禱していただいたり、震災復興祈念版画をご祈禱していただいたりと、私達の活動に様々なお力添えをいただいております。



上が、ご奉納の際の写真。下が、二月六日に第一作目の原画と、復興祈念版画をご祈禱していただいた際の様子です。

### 東日本大震災復興祈念朗読会

「祈りをつなぐ心の原風景」

「かけがえないふるさと被災地に想いを寄せて」

【第一部】①はせがわファミリーによる復興祈念朗読会

「被災地の未来を輝かす心の原風景」二作品  
(陸前高田・気仙沼・いわき)

②鎮守氷川神社第二十六世目 宮司

鈴木邦房様によるご講話

【第二部】除災招福祈願と復興祈願

【日時】平成二十四年三月十一日(日)

第一部：十六時～十七時

第二部：十七時三十分～十八時

※十五時三十分 受付

【場所】鎮守氷川神社(埼玉県川口市青木五十八ー四十八) 京浜東北線「西川口駅」東口より徒歩十五分・駐車場有

【定員】先着50名様 ※定員となり次第締切

【参加費】無料 ※会場に義捐金箱を置かせていただきます。宜しければお気持ちをお納めください。

【お申込み方法】ファックス、メール、お電話で

左記の必要事項をお伝えください。

【お申込み先】「ドリーム工房☆はせがわ」はせがわ祐希まで

電話・ファックス048(671)7708

メール mail@dream-hasegawa.com

【お申込み締切】二月二十九日(水)

【参加者様のお名前】

代表者( )

二人目( )

三人目( )

【ご連絡先】

お電話( )

ファックス( )

メール @

※お申込みいただいた方には、こちらから当日の詳細をお送り致します。